

# NIRO News Letter

vol. 4

財団法人 新産業創造研究機構

## 目次

技術移転センター本格稼働……………1p	研究事業トピックス・研究支援…4p~5p	新人紹介、所内短信他……………8p
VE研修・メッセ'98他……………2p~3p	East&West……………6p~7p	

## NIRO技術移転センター (Technology Transfer Center) 本格稼働

支援事業部では、地元中堅・中小企業が、激しい産業構造の変革に耐え、21世紀に向けて世界に通じる国際競争力を保持するための支援を目的とするNIRO技術移転センター(Technology Transfer Center:以下TTCという)を平成10年4月に設立した。

TTCは、中堅・中小企業の技術高度化や新製品開発を支援し、新産業創造につながるベンチャー企業を育成する。

### ■TTC事業の概要

TTCでは、新製品開発支援、技術高度化支援、技術移転セミナーの開催等を行う。

新製品開発支援として、大手企業、大学、研究機関等が保有する特許等の技術やノウハウをもとに、地元中堅・中小企業と共に技術の高度化や新製品の



NIRO 技術移転事業  
NIRO 技術移転センター長  
松井 繁 朋

の開発プランを企画・立案する。その際、事業化ニーズに即した技術の発掘や企業同士のマッチング等を行なうと共に、事業化指導に適したNIRO技術移転アドバイザーらを派遣して、新規事業化を支援する。

技術高度化支援として、既存企業の設計技術、生産技術その他自動化技術等につき、大手企業OB等の技術エキスパートの派遣による具体的な技術移転や特許移転等に関する相談に応じる。

また、技術高度化を目的として、実践的な技術移転を促進するための技術移転のテーマに関する技術セミナーを開催する(次頁参照)。

### ■特許流通アドバイザー

特許庁所管の(財)日本テクノマートから特許流通アドバイザーとして園田憲一氏がNIROへ派遣され(本年7月)、特許等の工業所有権情報の有効活用を促進する体制が整った。

このほか技術移転アドバイザーとして、NIROの研究者や大手企業の技術者OB、大学・研究機関の研究者、技術士、中小企業診断士、経営専門家等を登録し、個々の事業化に最適なアドバイザーからなるプロジェクトチームを編成して事業化を支援する。

### ■知的所有権センター事業

この度、TTCは、兵庫県発明協会とあわせて兵庫県知的所有権センターとして特許庁の認定を受け、従前から兵庫県知的所有権センターであった兵庫発明協会の①公報閲覧事業、②特許情報提供事業、③特許情報に関する検索指導・相談事業との緊密な連携のもとに、特許流通支援事業を本格的に実施する。

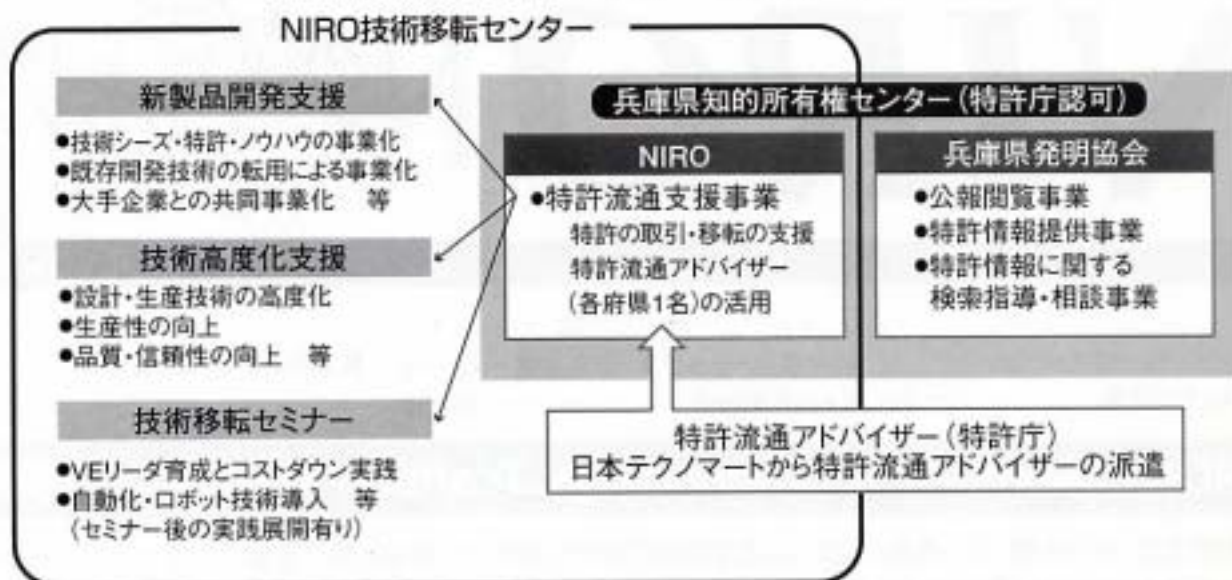
知的所有権センターの事業としては、①~③の事業は従来通り兵庫発明協会が担当し、NIRO TTCは特許流通支援事業を行う。

## NIRO 技術移転センターの概要図 (Technology Transfer Center;TTC)





## NIRO技術移転センターの事業内容



## VE入門研修(第1回NIRO技術移転セミナー)の開催

技術移転センター(TTC)では、第1回技術移転セミナーとして、コストダウン、技術の高度化等に極めて効果的なVE手法について研修会を開催した。

今回実施するのは、ステップ1としての「VE研修」で、平成10年7月16日(木)、17日(金)の2日間、(財)新産業創造研究機構内で行った。

修了後は、「日本VE協会」認定の「VEリーダー」受験資格が取得できる。さらに、ステップ2として、研修修了後、希望する企業において実際にコストダウンに取り組む場合には、NIRO技術移転センターよりアドバイザーを派遣し、具体的な製品コストダウンのためのアイデアを検討し、これを通じて実践的なVEリーダーを育成することができる。

講師:大西 正規氏

国際バリューズスペシャリスト(CVS\*)、日本VE協会参与、技術士(経営工学)、NIRO技術移転アドバイザー

\*CVS:Certified Value Specialist、米国VE協会認定の国際バリューズスペシャリストの称号。



VE:Value Engineeringの略。改善対象の機能に着目し、それを分析して不必要なものを除いていく考え方および手法。製品のコストダウンに極めて効果がある。

## スウェーデン大使館技術アタッシュェ交流会開催される



NIRO支援事業部は、大使館による海外先端技術動向に関する話題を交えて、技術開発や新製品開発に意欲的な経営者等が集う第1回大使館技術アタッシュェ交流会を開催した。スウェーデン大使館科学技術参事官レナート・ステンベリイ氏を講師に、「知識集約型社会へ移行するスウェーデン」と題して同国の国情をふまえた産業紹介がなされた。また、講演後の交流会でも積極的な意見交換がなされた。

同国は人口900万、日本よりやや大きい国土を持ち、日本同様1980年代にバブル経済を経験した。政府及び国民は不良債権処



理に長く苦しんできたが、政府が債権を納税者に負担をかけない形で肩代わりし、それを克服した。また、独創性を持った環境と個人を育成した結果、90年代に入って研究開発費が飛躍的に伸び、ソフトウェア、特にIT産業やバイオ産業等ハイテクのR&Dが大きく進展し、多くの中小・ベンチャー企業を輩出している。例えば、歯肉後退防止剤を開発したビオラ社や、研究開発・パテント戦略を重視し生産は他企業に行わせるアレブリンターズ社(トナージェット技術)、ネット型触媒技術を開発したカトール社等がある。これらの企業は大学に隣接するサイエンスパークに位置し、産学連携が盛んである。

近い将来、両国間で科学技術協定が締結され、研究

開発協力が一層促進される予定である。

このように、現代日本の抱える問題を解決し、次世紀に向けた知識集約型社会へ移行しつつある同国の動向は、我が国の産業のみならず日本の将来を模索する上で参考になるケースといえよう。

### ●第1回 大使館技術アタッシュ交流会

テーマ:「知識集約型社会へ移行するスウェーデン」

講師:スウェーデン大使館 科学技術参事官

レナート・ステンベリィ氏

日時:平成10年6月19日(金) 18:00~21:00

場所:神戸市産業振興センタービル10階レセプションルーム等

参加者:行政機関、産業振興団体、大学、企業等から51人

共催:(財)神戸市産業振興財団

## 国際先端技術メッセ'98の開催

出展募集中!

# 新産業創造フェスティバル 神戸 国際先端技術メッセ'98

—技術融合を通じての次世代産業の創出—

●とき:平成10年11月4日(水)~6日(金)

●ところ:神戸国際展示場2号館

### 同時開催

- オープニングフォーラム
- ベンチャープラザ
- 神戸ニュービジネスフェア
- 近畿特許流通フェアIN神戸
- アントレプレナーセミナー



### 出展対象

情報関連、通信関連、FA関連、ロボット関連、制御関連、電気・電子関連、計測関連、センサ関連、分析関連、検査関連、材料関連、生産技術関連、メンテナンス関連、耐震・防災関連、土木・建築関連、環境関連、エネルギー関連、福祉関連など

### 前回入場者数

約23,000人

### 出展料

20万円/1小間(3m×3m)(基礎小間設置料含む)

### 主催

#### 国際先端技術メッセ'98実行委員会

兵庫県、神戸市、NIRO、(財)阪神・淡路産業復興推進機構、  
(財)兵庫県中小企業振興公社、(財)ひょうご科学技術協会  
(事務局)(財)新産業創造研究機構支援事業部  
〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-5-2  
TEL:078-306-6806 FAX:078-306-6813  
E-mail: fair@ri.niro.or.jp

### 事業内容

- ①オープニングフォーラム(予定)  
テーマ:新産業の創造を目指して  
~新産業創造とネットワーク~  
・基調講演 水野 博之(スタンフォード大学教授)  
・パネルディスカッション  
パネリスト  
堀場 雅夫(堀場製作所会長)  
南部 靖之(㈱パナソニック代表)  
松井 繁明((財)新産業創造研究機構専務理事)  
畑 祥雄(成安造形大学助教授)  
コーディネーター  
加登 豊(神戸大学経営学部教授)
- ②先端技術セミナー:  
「情報・メカトロニクス」等の先端技術  
テーマ例  
(1)技術革新のための情報・通信技術の導入  
(2)利益をもたらすロボット導入のポイント  
(3)バーチャルリアリティを用いた新製品開発の高度化と効率化
- ③先端技術展示会 約200小間(予定)



## NIRO研究事業トピックス

2年目に入ったプロジェクト研究、および平成9年度より活動開始した調査・先行研究について、現状と最新のトピックスを紹介する。

## 高齢者・身障者のためのエイディング(介護・支援)システムの研究

## リングセンサー小型化に成功

高齢者・障害者のためのエイディングシステムの開発の中の1つとして、24時間装着し健康状態をチェックできるリングセンサーをMITのコンソーシアムと共同で開発している。このたび、実際に指に装着できる大



きさのセンサーが開発できた。20mm角の基板上にすべての処理回路と無線送信機を実装した。今後、兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所と共同で本センサーを実際に高齢者に使ってもらい、問題点を明らかにしてセンサーの改良を行う。

## 日本機械学会研究会にて発表

5月30日、兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所において行われた日本機械学会バイオエンジニアリング部門の生物機械システム研究会

において、研究一部の中嶋研究グループ長とシュテファンフ上席主任研究員が研究発表した。題目は前者が「指輪型生体情報監視システム」、後者が「上肢障害者のためのリハビリテーションアームロボット」であり、参加者の注目を集めた。



## 災害時の情報と安全のための基盤技術の開発

## 理化学研究所 地震防災フロンティア研究センターに研究参画

平成10年4月1日より、地震防災フロンティア研究センター災害過程シミュレーションチーム(林春男教授、牧紀男先生)に研究員を1名非常勤で派遣している。そこでは、災害を長期的

視野で扱い、地震がどのように発生し、どのように被害を発生させ、それに対して個人や社会がどのように対応するかといった災害過程への理解を深め、その理論的枠組みを構築する事を目指している。研究内容は災害時、災害後の継続的なデータを処理しデータベース化

して、災害時からの復興していく過程の指標化を行うというものである。具体的ステップとして、地球観測衛星からの被災地の地震前、地震直後、地震後一定時間毎のリモートセンシング情報を画像処理して、災害復興に関する新たな指標化を試みる。

## 高輝度放射光(SR)産業利用技術の研究

SR産業利用装置開発に関する川崎重工業㈱、および神戸製鋼所からの委託研究を実施するため、SPring-8兵庫県有ビームラインに設置する金属材料評価・分析装置(その場観察可能)の基本仕様設計を行った。

経路工業大学に研究員を派遣して、SR利用装置設計技術等の習得を図り、日本放射光学会H10.1 at CAST)での研究発表を行った。加えて、SR利用の先進研究機関であるロシア・ブドカー研究所より研究員をNIROに招聘し、

早期の研究開発を図っている。またNIRO研究会活動を通じてSR産業利用を目指す地域の中堅企業、国公立研究機関、大学等との連携関係を構築した。

## 次世代交通/物流システムの開発

## 神戸商船大学との共同研究

下記のテーマについて、神戸商船大学との共同研究を昨年に続き実施している。「先進モーダルシフトに関する基礎的研究」(トラックによる陸上輸送から海上輸送への転換による炭酸ガス排出量の削減)、「内陸部から港頭

地区への流通拠点の移動による輸入貨物費削減の可能性の検討」

これらについては、これまでの成果を平成10年5月に開催された日本航海学会で発表した。

## 今後の計画

本年度中に下記の募集型研究会を発足させる

予定。

- ①バルブモールド、スチール型枠を利用した物流モールの構築
- ②データキャリア利用促進
- ③先進の内航船、新しい荷役システムを導入した先進モーダルシフト

## 調査・先行研究

## リサイクル関連

自治体、環境関連財団、企業の参加を得て、家庭からの廃食用油回収・リサイクル促進のための「クッキングオイル再利用システム研究会」設立準備を開始した。また廃食用油の空調燃料としての利用技術開発にも着手した。

## 土壌汚染関連

平成10年12月に学識経験者を組織して「土壌汚染問題研究会」を設立し、社会システム面からの土壌汚染問題解決策を中心に研究会開催

中。また企業を主体とする「土壌浄化技術研究会」について参加を公募し(現時点で6企業参加予定)、現在設立準備中である。

## メンテナンス関連

「メンテナンスの革新」を目指した研究会設立を準備中である。

## 新規テーマ探索

NIROの要請により米国マサチューセッツ工科大学から出された10件の研究提案のうち下記3テーマを一次選定した。

- ①先進レーザー計測・加工技術を応用した製造技術の革新
  - ②海洋コンテナの海洋～内陸輸送の効率化のためのシステム研究
  - ③固体廃棄物からの高効率エネルギー回収技術
- これらのテーマについて、本年度共同研究開始に向け、各提案について研究参加企業募集を実施中である。



## 研究支援

### 科学技術庁地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業

兵庫県は、科学技術庁地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業に対し、NIROを候補拠点機関として実施を申請していたが、このたび平成10年度事業開始地域1府6県の一つとして選定された。

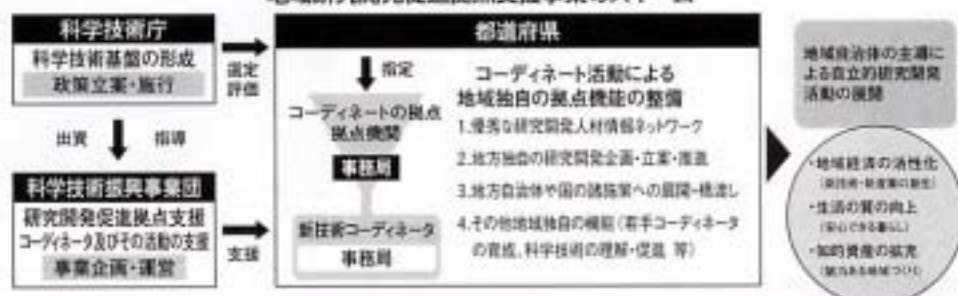
同事業は、地方公共団体が、科学技術活動の活性化を図るために設立した財団等を研究開発コーディネータ活動の拠点として整備し、科学技術基盤を県下に根付かせるための活動を行うにあたり、国全体の科学技術基盤形成の視点から、科学技術庁が新技術コーディネータおよびその活動を支援するものである。事業費は年間4000万円程度、実施期間は原則4年間である。これまで平成8年度に1道6県、9年度に

6県が選定され、既に事業を開始している。また、本事業実施地域の選定は平成11年度の6地域で終了の予定である。

NIROは、研究所副所長の熱田稔雄を新技

術コーディネータとして、人材の発掘、情報の蓄積、情報・人的ネットワークの構築等を通じて新産業創出につなげることを目指して、今後活動を行う計画である。

#### 地域研究開発促進拠点支援事業のスキーム



### 科学技術庁STAフェローシップ制度

NIROは、平成10年3月13日付で科学技術振興事業団より、科学技術庁STAフェローシップ制度外国人研究者受入機関として認定された。

同制度は、外国の研究者が日本で研究活動に従事するにあたって、科学技術庁が渡航費、生活費、住居費、研究費等を支

給するもので、毎年400名程度の研究者に適用されている。この制度により研究員を受け入れるためには、制度実施を担当する科学技術振興事業団より受入機関として認定される必要があり、平成10年4月現在国立試験研究機関、研究開発活動を行う特殊法人、認可法人、公益法人、ならびに地方

公設試合せて152機関が認定されている。

NIROでは、今後この制度を積極的に活用して海外から研究者を招聘し、研究事業を促進するのみならず、海外研究機関とのネットワーク構築や、機構内、および賛助会員企業の研究者の活性化・レベルアップに役立てる計画である。

### 兵庫県海外研究員招聘事業

兵庫県は、海外の先進的な研究開発に従事する研究員を招聘し、共同で研究を行うことによって、内外の研究員の交流による研究環境の活性化および研究員の資質の向上を図り、国際的な先端研究開発、情報発信等を行うことを目的として、平成9年度

より海外研究員招聘事業を創設した。

NIROは本制度を活用し、平成9年度ブルガリアおよびロシアより研究員を招聘した。これらの研究員は、それぞれ高齢者・身障者のためのエイディングシステムの研究、高輝度放射光産業利用技術の研究に

従事し、目覚ましい成果を上げているため、平成10年度も同制度の適用を受け、この2名の招聘を実施したいと考えている。

### 中小企業大学の留学制度でNIRO研究員がMITへ

通産省・中小企業庁は、地方自治体が運営する工業系公設試験研究機関の活性化と研究職員の資質向上を図るため、海外留学制度を創設し、98年度の留学予定者13人を決定した。その中の1人として研究一部桂川主任研究員が選ばれた。

海外のシーズを元に研究開発を行い、新

産業を創造し、地元の中小企業に普及させる当機構のコンセプトが中小企業大学から制度の主旨にふさわしいと判断され、留学を認められた。7月1日より約1カ月、MITに滞在し、健康管理用のリングセンサーの技術の移転を受ける。帰国後はフィールド試験の実施を目標に、試験用センサー

の製作やテスト時に使用するソフト開発を行う予定である。

なお、本制度では同じ兵庫県から兵庫県立工業技術センター 柏井研究員が誘導工程のシミュレーション技術の調査のため、独アーヘン工大への留学を認められている。

### 通産省地域コンソーシアム研究開発事業(炭イオン工学研究所との共同研究)

今年度の通産省地域コンソーシアム研究開発事業提案募集に対し、NIROは全15委託研究実施機関のひとつとして、人工臓器の弁など高精度が要求されるゴム・プラスチック用金型の難塑性を高めるためイオンを使った金型表面処理装置の開発という提案を

行い、採択された。本提案は、処理コストが安価で、立体的かつ均一なイオン注入・成膜を可能となすイオンビーム装置の開発を行って、寸法精度、高温耐熱性、耐食性、耐摩耗性、耐金型汚染性等に優れ、かつ省エネルギーに対応した、高性能金型製作

技術を開発することを狙いとされている。NIROは、高輝度X線源となる放射光主体の、原子レベルでの表面・界面構造評価技術を活用した、金型表面改質層微細構造の分析・解析・評価を担当する。



## East & West

### 米国MITを訪問

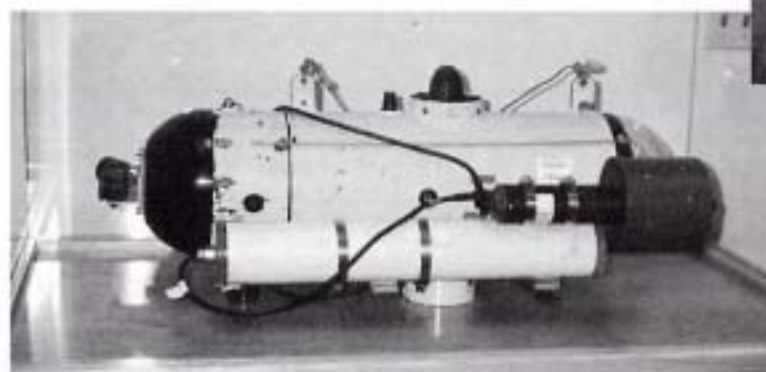
5月上旬、NIRO松井専務理事以下がMITを訪問し、昨年度よりNIROも参画して実施中のホームヘルスケア研究コンソーシアム(浅田研究室)の進捗状況を視察した。さらに今年度より開始予定の新規委託研究(先進レーザー技術を活用した製造技術の革新、海洋コンテナ輸送効率化のためのSMART ID Tagの活用、新型高温熱交換器による高効率固体廃棄物発電技術)について、その進め方を討議した。



▲MIT 海洋工学科増岡教授、パトリカラキス教授他と、先進レーザー技術関連研究開発について打ち合わせ。



▲身体障害者の手元より送られる信号をロボットボディー中に付帯したセンサーが受信し、ロボットを遠隔操作できる。このシステムは、身体障害者就労のための人間とロボットが共存できるシステムである。



▲MIT Sea Grant ラボの、海洋における海面や潮流の自動観測計測を行うための小型無人潜水艇



▲多孔を有するセラミック薄膜を積層することによって円盤状の耐熱-耐食性熱交換器を製作する。これに RDF(廃棄物固化石炭)の燃焼ガスを透過させ、その熱を使ってガスタービンに送る熱換用空気を予熱することによって高効率ガスタービン発電に利用する。

### 英国マンチェスター工科大学 Colin Webb 教授来所

—英国の石油は穀物から—

5月19日午前、英国マンチェスターにあるUMIST(マンチェスター理工科大学)サタケ研究所教授のコリン・ウェブ博士がNIROを訪問された。ウェブ博士は神戸大学工学部福田教授と共同研究を進めており、石油の代わりに穀物からバイオ技術を使って燃料や石油生成物を作り出す研究をしている。英国は北海油田を有する産油国であるが、将来は穀物(例:モミガラ等)から石油を作る産油国になるかも知れない。

## 英国ケンブリッジ大学チャーチル校 ボイド校長他来所

6月2日英国ケンブリッジ大学チャーチル校のボイド校長、同大学機械工学部のグレゴリー教授他が来日し、昨年11月に締結されたNIROとケンブリッジ大学との研究協力協定を受けて、今後の研究協力の具体的な進め方が話し合われた。翌日には県立工業技術センター他を訪問され、大庭理事長主催の晩さん会には貝原兵庫県知事他も出席して、会談が行われた。



▲前列左より、NIRO大庭理事長、貝原知事、ボイド校長、モートン卿(ケンブリッジ大学評議員、元ユ) ▲ボイド校長、グレゴリー教授、NIRO E訪問  
—ロトンネル総監)

## 英国ケンブリッジ大でのTECHNOLOGY MANAGEMENT 国際会議に参加



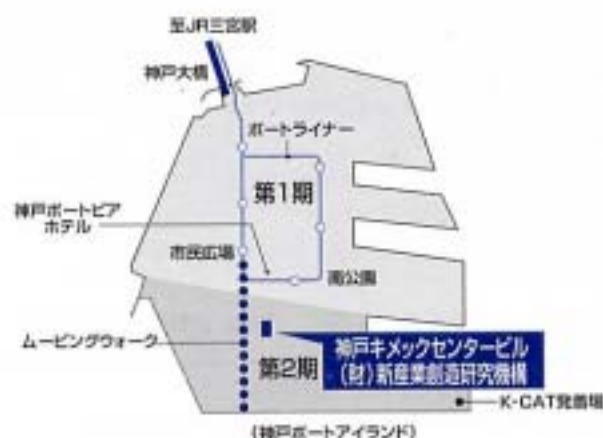
▲講演中の熱田副所長

ケンブリッジ大学において去る7月9日及び10日に開催された、標記国際会議にNIRO研究所の熱田副所長が参加し、“A New Management of R&D in Japan”と題して講演を行った。

会議には、各国主要企業の技術担当マネージャー約80人が集まった。EU Commission, Shell International, Sloan School (MIT), Jaguar等からの基調講演の後、Sustainability, Foresight, Knowledge Managementの3テーマに分かれ、ケーススタディおよびワークショップを開催、技術開発の経営戦略等に関し、この分野における専門家による活発な議論がなされた。

## NIRO事務所移転のお知らせ

NIROは神戸キメックセンタービル6階に移転しました。



## 交通のご案内

- JR三宮駅から、ポートライナー市民広場駅下車、ムービングウォークで約8分
- JR新幹線 新神戸駅から車で約15分
- JR三宮駅から車で約10分
- 関西国際空港からK-CAT(高速船)、車乗り継ぎで約35分
- 大阪国際空港から車で約40分

住所：〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目  
5番2号(神戸キメックセンタービル6階)  
TEL: 078(306)6800(代表)  
FAX: 078(306)6811



## 大学、大手企業が持つ有用特許の中小企業への積極的移転を開始



NIRO技術移転センター  
ディレクター  
日本テクノマート  
特許流通アドバイザー  
園田 憲一 (57)

この度、旧日本テクノマート(特許庁所管、略称JTM)の研修を受けて正式にJTM特許流通アドバイザー

になりました。これは、シーズ提供者側と技術導入を希望するニーズ側を橋渡しする技術移転の専門家です。国の方針としては、各都道府県にそれぞれ一人ずつ設けて行く予定で、現在約半分の道府県に設けられたところです。研修で出来たアドバイザー間の親密なネットワークは、我々の貴重な財産のみならず中小企業の皆さんにとっても非常に役立つと思います。是非

気軽にご利用下さい。

NIRO技術移転センターは本年4月に発足したばかりです。中小企業の皆さんにご満足いただけるまでにはまだまだですが、こうして国との連携も強めることが出来ましたし、今まで以上に県市の方々等のご支援も受けて頑張りたい!とスタッフ一同張り切っています。どうぞよろしくお願い致します。

### 新人紹介(平成10年度～)

#### ●NIRO技術移転センター



宮本 直樹(46)

さくら銀行より出向。入行以来、融資渉外部門担当のベテラン銀行マン。NIROでは新産業・新製品を生み出す事業を担当する。特技は、前任の長野支店で覚えたスキー。

#### ●支援事業部



西野 泉(48)

日商岩井より出向。米国シカゴで産業機械の輸出入に従事の実験あり。NIROでは、国際先端技術メッセ、大使館技術アタッシュ交流会を担当。フルマラソンを32回完走、最高タイム3時間5分の記録を持つ健脚の持ち主。

#### ●研究企画部



大隈 修(50)

旧神戸製鋼所より出向。入社以来、研究開発畑で、主に石炭転換技術開発に従事(褐炭液化プロセス開発研究で工学博士号取得)。NIROでは、研究企画部に所属し、RSP事業の早期立ち上げと、主として環境・エネルギー分野の業務を担当する。趣味:読書(歴史物)、昔の趣味は空手。

#### ●研究一部



芝崎 学(28)

神戸大学大学院自然科学研究科で学術博士の学位を取得。日本学術振興会の特別研究員(ポスドク)として4月からNIROへ。研究テーマは「安全なヒトの深部体温計の開発」。研究一部の高齢者・障害者のAiding Systemの開発に参加し、医学面からの寄与を期待されている。

#### ●研究二部



柳瀬 悦也(31)

川崎重工業より出向。機械性薄膜形成技術の研究開発および放射光利用分析評価技術の研究に従事。NIROでは、放射光を用いた分析評価技術の研究開発に従事し、放射光の産業利用を推進する。

### ◆研究参加の募集◆

NIROでは、平成10年度にも様々な分野での研究計画を進めています。興味をお持ちの企業は是非ご参加ください。また、NIROの場で実施してみたい研究テーマのご提案もお持ちしています。詳細は募集要項をご覧ください。

お問い合わせ先: 財新産業創造研究機構研究企画部 担当 大内または石川まで  
TEL: 078(306)6801 FAX: 078(306)6812

### 所内短信

#### ◆医工学研究会が新ビルにて開催される

4月2日午後、神戸大学森脇先生を主催者とする医工学研究会第84回研究会が開催された。研究会は医学、工学、心理学、体育学、生理学など、専門分野を異にする研究者が寄り集まり、自己の専門にこだわらず、学際的な研究を推進することを目的として発足した有志の研究会で、20数年にわたる実績を有している。これまでメンバーによる随意の共同研究を進めるとともに、年4回程度の研究会を催し、メンバーによる研究内容や成果についての意見交換、関連研究者を招いての勉強会や交流、関連研究施設の見学などを行ってきた。当日は、4月から当機構に参加した芝崎研究員が「光ファイバーを用いたヒトの鼓膜体温測定法」を、熱田副所長が「新産業創造研究機構の研究紹介」を講演し、活発な討議がなされた。

また第85回も引き続き本機構で7月21日に開かれた。この研究会への参加は自由で、参加希望あるいはより詳しい情報を知りたい方は、代表者神戸大学工学部森脇俊道教授まで。

### 賛助会員募集のお知らせ

財新産業創造研究機構では、広く賛助会員を募集いたしております。地域で活動されている企業で、当研究機構の事業目的にご賛同いただける企業・団体なら、業種・規模は問いません。産業復興に貢献する当機構の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

お問合せ先: 財新産業創造研究機構事務局

担当 羽迫、貞園まで

TEL: 078(306)6800 FAX: 078(306)6811

新産業創造研究機構ホームページ URL: <http://www.niro.or.jp>

発行 財新産業創造研究機構

住所 〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-5-2

(神戸キメックセンタービル6F)

TEL: 078(306)6800 FAX: 078(360)6811

担当 松崎、石川

E-mail [matuzaki@ri.niro.or.jp](mailto:matuzaki@ri.niro.or.jp), [ishikawa@ri.niro.or.jp](mailto:ishikawa@ri.niro.or.jp)